

造形の要素と作品の背景を関連付けた鑑賞を通して、 美術文化について実感的な理解を深める授業

田代 豪

1 題材名

墨が生み出す豊かな世界～近代以前の日本絵画～（2年生）

2 目標

- 造形の要素を観点に複数の作品を比べることを通して、作者の表現の工夫と作品の時代背景とを関連付け、日本絵画の表現の特質について説明することができる。

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">日本絵画の表現の特質（余白や空間の効果、墨の効果、対象の省略）を捉えることができる。	<ul style="list-style-type: none">構図を観点に、作品を比べ、表現の共通点や相違点を見だし、造形的なよさや美しさなどを説明することができる。時代背景と作者の表現の工夫を関連付け、作品の見方や感じ方を深めるところができる。	<ul style="list-style-type: none">日本の美術作品が受け継いでいる表現の特質に気付き、生活を豊かにする造形や美術の働き、美術文化について実感的に理解しようとする。美術文化を通して、美術文化の継承と創造について見方や感じ方を深めようとする。

4 本題材を学習する意義

現代の美術教育では、ルネサンス期に西洋で確立した遠近法による空間の表し方が定着している。しかし、近代以前日本は、西洋とは異なった空間表現をしていた。日本絵画の空間は平面的と言われるが、それは現代の西洋的な空間認識に基づいた見方である。日本的な空間認識を理解した上で、日本絵画の表現の特質を見いだす表現や鑑賞の活動は十分には行われていない現状がある。

そこで、本題材では、近代以前の日本絵画に着目して鑑賞活動を行う。近代以前の日本の美術作品について生徒は、社会科の歴史分野の学習から時代背景を知っていたり、これまでの生活経験から「わび」「さび」を表した簡素な作品という漠然とした印象をもっていたり、「古くて分かりにくく、自分の生活には関係のないもの」という印象をもっていたりする。

そのため、近代以前の日本絵画を鑑賞するにあたり、概括的な変遷と関連性がとらえられるように作品を提示する。室町時代の水墨画、安土桃山時代の狩野派、長谷川派、江戸時代の琳派の作品を提示する。とくに本題材では、長谷川派に注目した題材構成とする。中でも長谷川等伯の作品を中心にするにより、当時に活躍した狩野永徳の作品と比べたり、作者自身の作品と比べたりすることができるためである。

その結果生徒は、日本の先人たちが永年構築していった日本絵画の表現の特質を、現代の日本人も受け継いでいることに気付き、美術文化の継承と創造について見方や感じ方を深めていくことができる。

5 本題材における手だて

<手だてア>

日本絵画の表現の特質を体験できる作品を提示する。

構図と遠近，明暗を観点に，西洋と日本絵画作品を比べ，日本と西洋の表現の特質（空間の効果）の違いを見いだすという資質・能力を発揮させるために行う。最初に，メインデルト・ホッペマ『ミッデルハルニスの並木道』と鈴木其一『夏秋溪流図屏風』を提示し，「2つの作品にはどのような表現の違いがあるか」と問う。



【ミッデルハルニスの並木道】

【夏秋溪流図屏風】（六曲一双）

前単元で生徒は，ルネサンス期に確立された西洋絵画の伝統的な表現方法を学んでいる。透視図法と明暗法である。生徒は，構図と遠近，明暗を観点としてオランダ絵画と琳派の作品を比べる。

<予想される生徒の意見>

『ミッデルハルニスの並木道』	『夏秋溪流図屏風』
<ul style="list-style-type: none"> 一点透視図法によって奥行きがある。 影がついて立体的である。 現実の風景をありのままに描いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 奥行きはないが，横に広がっている。 影がなく平面的である。 空や地面を省略している。

次に，出された意見から透視図法に着目し，消失点の有無が画中にどのような効果をもたらすのか確認するため次の発問を行う。『夏秋溪流図屏風』右上の緑色の丘からスタートして，セミを捕まえて，左上の緑色の丘にゴールするには，どのようなコースをとりますか」と問う。この発問により生徒は，ゲームをしているような感覚で，自由に画中を移動することで日本絵画の空間に入り込むことができる。

この働き掛けにより西洋絵画の奥行きのある表現（空間の効果）に価値を見いだしていた生徒が，近代以前の日本絵画にも価値があることに気付き始め，「近代以前の日本絵画をもっと知りたい」という目的意識が醸成され，以下の課題をもつ。

<本題材における課題>

近代以前の日本絵画には，どのような表現の特質があるのだろうか。

<手だてイ>

水墨画の表現技法が用いられた作品を比べる活動を組織する。

水墨画を中心に日本絵画の表現の特質（墨の効果，対象の省略）を見いだすという資質・能力を発揮させるために，技法体験と鑑賞活動を組織する。

- ① 生徒が墨による表現の効果を見いだすために，水墨画の表現技法を体験する。雪舟等楊『秋冬山水図』を提示し，「どのような線で描かれているか」と問い，疑問をもたせた上で，

水墨画の技法体験を行う。生徒は、「調墨」「運筆」「積墨法」「没骨法」「破墨法」を体験した上で、『秋冬山水図』にはどのような水墨画の技法が用いられているか」と問う。このことにより生徒は、体験したことを基に墨の効果を見いだすことができる。また、水墨画の技法体験後、雪舟等楊の『四季山水図』を提示し、「どのような視点で描かれていますか」と問う。この発問により生徒は、山水画の「三遠法」による空間表現を捉えることができる。



【秋冬山水図】

＜『秋冬山水図』予想される生徒の気づき＞



【四季山水図】

- ・ 運筆と調墨によって樹の幹や岩の質感を出している。
- ・ 近景を濃く、遠景を淡く描いている。
- ・ 輪郭線で描くところと没骨で表すところと使い分けている。
- ・ 積墨法で岩の立体感を表している。
- ・ 白いところは塗り残して、雪や雲を表している
- ・ 3つの視点を組み合わせている。

② 狩野派と同時代に活躍した長谷川派の作品を比べる。

生徒に安土桃山時代の時代背景を示した後、狩野永徳『檜図屏風』を提示する。また、狩野派と同時代に活躍した長谷川等伯『楓図壁貼付』を提示する。狩野派は水墨画の表現技法に加えて独自の制作方法を確立し、当時絵師たちの主流となった集団である。それに対し、長谷川等伯は、独自の表現を追求し、狩野派に対抗した稀有な絵師である。そこで、「狩野永徳『檜図屏風』と長谷川等伯『楓図壁貼付』にはどのような表現の共通・類似点、相違点がみられますか」と問う。



【檜図屏風】



【楓図壁貼付】

<予想される生徒の意見>

共通・類似点	相違点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊臣秀吉の命で描かれているため、金箔の背景で華やかにしている。また、画面中央に樹の幹を大きく描き画面からはみ出すことで、迫力を出している。 ・ 背景を金箔で表し、具体物を省略している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 檜図は、檜の樹だけを魅せようとしているが、楓図は楓を中心に樹の周りを取り囲む秋の草花も見せようとしている。 ・ 檜図の背景は、金色で雲を表しているが、楓図の背景は、金色で雲、空、地面など複数のイメージを重ねている。

このような働き掛けを行うことにより生徒は、時代背景、作者の表現の意図、創造的な表現の工夫を関連付け、近代以前の日本絵画の表現の特質（墨の効果、対象の省略）について実感を伴って理解することができる。

<手だてウ>

同一作者の同時代による作風が異なる作品を提示する。

日本絵画の表現の特質（余白や空間の効果、墨の効果）を捉えるという資質・能力を発揮させるために行う。長谷川等伯が『楓図壁貼付』を完成させた数年後に描いたとされる『松林図屏風』を提示する。



【松林図屏風】（六曲一双）

- ① 『松林図屏風』と『楓図壁貼付』を比べる活動を組織する。

『松林図屏風』と『楓図壁貼付』を比べる活動を行う前に、『松林図屏風』のモチーフの分析を行い、出された意見や疑問を学級内で共有しておく。こうすることにより作品の見方を広げておくことができる。そうした上で2つの作品を比べる活動を行う。生徒は、造形の要素を観点に作品を比べて、時代背景と作者の工夫を関連付けて、『松林図屏風』の表現の特質（余白や空間の効果）を見いだしていく。

<予想される生徒の対比>

松林図屏風への変化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 背景となっている雲・霧の描き方が違う。楓図は雲の形がはっきりと金箔や絵の具で描かれているが、松林図は松を描くことで霧の形を描いている。 ・ 楓図は、空、地面、雲、光など複数のイメージが金箔で表現されている。松林図でも、空白で、空、地面、霧、光など複数のイメージを表現している。

- ・ 松林図は、楓図の横に広がる空間に加えて、奥に入り込む空間の深さが表現されている。水墨画の三遠法の要素が感じられる。
- ・ 松林図は、六曲一双の様式だから、右隻と左隻で対の関係が含まれている。楓図は屏風の様式ではない。

最初に個人で、2つの作品を比べ何がどのように変化したのか分析する。その後、グループで意見を共有する。そして最後に「墨の効果」「余白や空間の効果」にかかわる意見を学級全体で共有していく。

② 作品の創造性を捉える発問を行う。

『松林図屏風』を描いた時、長谷川等伯は何を表現しようとしていたと思いますか。」と問う。この発問により生徒は、造形の要素を観点に、作品の時代背景と表現の工夫とを関連付けて、作品の創造性を捉えようとする。

<予想される生徒の意見>

空白で静けさを表していると思う。わざと荒々しい運筆で松を描いている。また、濃墨で描かれた松の樹は4か所で、それもごく一部だけ描かれている。他の松の木は淡墨でぼんやりと描かれている。部分的に見ればとても迫力のある絵だが、画面全体は何も描かれていない空白の部分が多い。その結果、空白と荒々しさが対比され、かえって空白の静けさが強調されている。

この①②の働き掛けによって生徒は、近代以前の日本絵画の表現の特質（余白や空間の効果、墨の効果）を時代の変遷で整理することができる。さらに、『松林図屏風』では、地と図の逆転していることに気付くことができ、自分の中に新しい価値が作りだされる。

その結果、美術文化の継承と創造について見方や感じ方を深めていくようになる。この姿が、資質・能力が高まった姿そのものと捉える。

<参考・引用文献>

- 松原茂 2005 「『松林図屏風』の魅力」「国宝・松林図屏風 長谷川等伯展」 財団法人 七尾美術館
- 宮島新一 2003 「長谷川等伯 真にそれぞれの様を写すべし」 ミネルヴァ書房
- 加賀徹夫 1979 「原色現代日本の美術 第2巻 日本美術院」 小学館
- 責任編集 荒川正明 2013 「日本美術全集第10巻 桃山時代 黄金とわび」 小学館
- 安河内眞美 2009 「知識ゼロからの日本画入門」 幻冬舎
- 猪子寿之 2013 「チームラボ、何者？ 日本美術史に新たなページを加える最先端アート集団の思考と作品」 マガジンハウス

6 本題材における構想 (全4時間 本時4/4)

目的意識	生徒の意識	学習活動・学習内容	教師の指導・支援	評価の方法
近代以前の日本絵画の特質について知りたい	<p>描かれている視点が違うぞ</p> <p>視点が自由に動くからゲームのような感覚で画面に入れるんだ</p> <p>日本絵画は身近なものだったんだ</p>	<p>① 近代以前の日本絵画の特質を見いだす</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 西洋と日本絵画作品を比べ、両者の表現の特質を見いだす ○ <特質となる観点> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視点 明暗法, 形の省略 構図の効果 ○ 視点に注目し, 表現の特質を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋は視点が固定し, 日本は固定が自由にある ○ 『夏秋溪流図屏風』と演出された空間を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小動物のキャラクターが画面の中に入り込んだ条件で自己を投影し空間を把握する。 <p style="text-align: center;">【日本絵画の空間表現の特質】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ メインデルト・ホッペマ『ミッデルハルニスの並木道』と鈴木其一『夏秋溪流図屏風』を提示する。 (手だてア) ○ 屏風の様式について説明する。 <p>発問：2つの作品にはどのような違いがあるか。</p> <p>発問：2つの作品の視点にはどのような違いがあるのか。</p> <p>発問：右上の緑色の丘からスタートして, セミを捕まえて, 左上の緑色の丘にゴールするには, どのようなコースをとりますか</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>WS①</p> <p>【思・判・表】</p> <p>WS②</p>
	<p>山水画には西洋と違う遠近がある</p>	<p>② 近代以前の日本絵画の概括的な変遷を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 水墨画の表現の特質を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 雪舟等楊『秋冬山水図』から水墨画の特質を見いだす。 ○ 水墨画の表現の特質を体験する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「調墨」「運筆」「積墨法」「破墨法」「没骨法」を体験する。 ○ 雪舟等楊『秋冬山水図』から水墨画の技法を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 雪舟等楊『四季山水図』から三遠法と余白について知る。 ○ 安土桃山時代の絵師に注目する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 『楓図壁貼付』『檜図屏風』を比べる <p style="text-align: center;">【水墨画の表現の特質】【創造的な表現の工夫】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 琳派の表現技法の基礎となった水墨画や大和絵の技法を提示する。 ○ 雪舟等楊『秋冬山水図』を提示する。 <p>発問：どのような線で描かれていますか。 (手だてイ)</p>	<p>【知・技】</p> <p>WS③</p> <p>WS④</p>
	<p>このような技で描いているんだ</p> <p>水墨画の技法が発展したぞ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『松林図屏風』の原寸大のコピーを鑑賞する ○ 作品を見た印象を共有する。 ○ 描かれているモチーフを分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水墨画の基本となる「調墨」「運筆」, 表現方法となる「積墨法」「破墨法」「没骨法」を体験する。 ○ 雪舟等楊『四季山水図』を提示し, 三円法, 余白について説明する。 <p>発問：『秋冬山水図』にはどのような水墨画の表現技法が使われていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当時の時代背景を説明する。 ○ 狩野永徳『檜図屏風』と長谷川等伯『楓図壁貼付』を提示する。 <p>発問：どのような表現の共通・類似点, 相違点がみられますか</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>WS⑤</p> <p>【思・判・表】</p> <p>WS⑥</p>
	<p>いきなり作風が変わった何があったんだ</p> <p>これまで見た水墨画とは何か違うぞ</p>	<p>③ 『松林図屏風』の原寸大のコピーを鑑賞する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作品を見た印象を共有する。 ○ 描かれているモチーフを分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雪舟等楊『四季山水図』から三遠法と余白について知る。 ○ 安土桃山時代の絵師に注目する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 『楓図壁貼付』『檜図屏風』を比べる <p style="text-align: center;">【水墨画の表現の特質】【創造的な表現の工夫】</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>WS⑤</p> <p>【思・判・表】</p> <p>WS⑥</p>
	<p>この作品は何を表しているんだろう</p>	<p>④ 近代以前の日本絵画の特質を見いだす</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 『松林図屏風』の表現の特質を見いだす。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 『松林図屏風』と『楓図壁貼付』の表現の変化を比べ, 何がどのように変化したのか検討する。 ○ 『松林図屏風』の主題を見いだす。 	<p>発問：『松林図屏風』と『楓図壁貼付』を比べると, 『松林図屏風』にはどのような表現の変化がありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人で分析した後, グループで意見を共有する。 ○ 「墨の効果」「余白や空間の効果」に注目し, 学級全体で意見を共有する。 <p>発問：『松林図屏風』を描いた時, 長谷川等伯は何を表現しようとしていたと思いますか。</p>	<p>【思・判・表】</p> <p>WS⑦</p>
<p>—</p>	<p>⑤ 活動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 近代以前の日本絵画の特質を見いだす。 <p style="text-align: center;">【日本絵画の表現の特質】</p>	<p>発問：近代以前の日本の絵画にはどのような特質がありますか。</p>	<p>WS⑧</p> <p>【学】</p> <p>振り返り</p>	

7 本時授業

(1) 前時までの学習を終えた生徒の実態

- 水墨画の基本（「調墨」「運筆」と表現方法（「積墨法」「破墨法」「没骨法」）を体験している。
- 水墨の効果の観点から狩野派の表現の特質を見いだしている。
- 狩野永徳『檜図屏風』と長谷川等伯『楓図壁貼付』の作品の共通・類似点、相違点を見だし、互いの作風の違いを感じ取っている。
- 安土桃山時代の作品の背景を理解している。
- 『松林図屏風』に描かれたモチーフを分析している。
- 『松林図屏風』を見て、気付いたことや疑問に思ったことについて、意見を交流している。

(2) 本時のねらい

造形の要素を観点に『松林図屏風』と『楓図壁貼付』を比べることを通して、『松林図屏風』の表現の特質（墨の効果、余白や空間の効果）を説明することができる。

(3) 評価

○ 評価の観点 思考力・判断力・表現

A	B
時代背景と作品の表現の工夫とを関連付けて『松林図屏風』の表現の特質（墨の効果と余白や空間の効果）を捉え、地になっているところと図になっているところが逆転していることを説明することができる。	時代背景と作品の表現の工夫とを関連付けて『松林図屏風』の表現の特質（墨の効果と余白や空間の効果）を捉え、説明することができる。

(4) 本時の展開

学習活動・学習内容と生徒の姿	教師の支援・指導	■ 評価の 観点・方法
<p>① 前時で出された意見や疑問を学級で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループで出された『松林図屏風』を見て気付いたことや疑問に思ったことを学級で共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ なんでこんなに何も描いていないところが多いのか。 ・ 濃墨で描かれた4本の松が横に並んでいる。 ・ 白い山と黒い松の樹を対比している。 ・ 千利休や息子の死が等伯に影響を与えたのかもしれない。 <p>② 『松林図屏風』と『楓図壁貼付』を比べることを通して、『松林図屏風』の表現の特質を分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 個人で造形の要素を観点に、『松林図屏風』と『楓図壁貼付』を比べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 背景となっている雲・霧の描き方が違う。楓図は雲の形がはっきりと金箔や絵の具で描かれているが、松林図は松を描くことで霧の形を描いている。 ・ 楓図は、空、地面、雲、光など複数のイメージが金箔で表現されている。松林図でも、空白で、空、地面、霧、光など複数のイメージを表現している。 ・ 松林図は、楓図の横に広がる空間に加えて、奥に入り込む空間の深さが表現されている。水墨画の三遠法で描かれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 原寸に印刷した『松林図屏風』と縮小印刷した『楓図壁貼付』を提示する。 ○ 「モチーフ」「余白や空間の効果」「水墨画の表現技法」「時代背景」に着目して、2つのグループから出された意見を学級全体で共有していく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>〈発問〉</p> <p>『松林図屏風』と『楓図壁貼付』を比べると、『松林図屏風』にはどのような表現の変化がありますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 造形の要素を観点とし、2つの作品を比べることにより、時代背景と作者の工夫を関連付けて、『松林図屏風』の表現の特質（余白や空間の効果、墨の効果）に気付かせる。 ○ 『松林図屏風』『楓図壁貼付』が印刷されたワークシート⑦を配付する。 ○ 必要に応じて、提示された『松林図屏風』『楓図壁貼付』を間近で鑑賞できるようにする。 	<p>【思・判・表】WS⑦</p>

<p>③ グループで意見を共有する。</p> <p>○ 各自で分析した意見をグループ内で共有し、意見を関連付けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運筆と調墨，画面に描かれていない空白を関連付けると，荒々しさと静けさが対比され，静けさが強調される。 <p>④ 学級全体で意見を共有する。</p> <p>○ 各グループから出てきた意見を学級全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 墨だけで描かれていることが大きな変化だ。墨だけで描かれることで，現実の世界と違う世界になる。 ・ 背景の描き方が変わった。楓図は金箔で背景を描き，雲や空のイメージを表現しているが，松林図は，松を描いて霧を表しているところが大きく違う。 <p>⑤ 『松林図屏風』の特質についてまとめる</p> <p>○ 『松林図屏風』と『楓図壁貼付』を比べて得た，表現の特質から，『松林図屏風』の主題を読み解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空白で静けさを表していると思う。わざと荒々しい運筆で松を描いている。また，濃墨で描かれた松の樹は4か所で，それもごく一部だけ描かれている。他の松の木は淡墨でぼんやりと描かれている。部分的に見ればとても迫力のある絵だが，画面全体は何も描かれていない空白の部分が多い。その結果，空白と荒々しさが対比され，かえって空白の静けさが強調されている。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><指示></p> <p>自分が分析したことについて，グループで意見を共有しなさい。必要であれば自分のワークシートを加筆しなさい。</p> </div> <p>○ 「墨の効果」「余白や空間の効果」にかかわる記述や意見のやりとりに注視し机間巡視を行う。</p> <p>○ 「墨の効果」「余白や空間の効果」にかかわる意見を出しているグループに発言を求める。また出された意見を学級全体に広め，意見を重ねていく。</p> <p>○ 墨の効果や余白や空間の効果について生徒の説明に不足があれば問い返す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><発問></p> <p>これまで分析して出された意見を基に，『松林図屏風』を描いた時，長谷川等伯は何を表現しようとしていたと思いますか。</p> </div> <p>○ 『松林図屏風』が印刷されたワークシート⑦を配付する。</p>	<p>【思・判・表】WS⑦</p> <p>【思・判・表】WS⑦</p>
---	--	-------------------------------------